令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)自分の言葉で説明することができる力 (2)探究的に自分の学びを調整することができる「統合的な問題解決能力」
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)協働的な学びの時間や児童同士で説明をし合う場面の意図的な設定、ICTを効果的に活用した学習展開【各単元の中で1回以上】 (2)主体的に問いをもつための導入の工夫、児童と共に学習計画を立てる授業の展開、単元の見通しをもって学習し、振り返りをする機会の設定【単元ごと】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	算数の設問4(3)「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかをみる」の問いで、全国でも正答率が2割ほどと低かったが、本校でも、4割と低めの結果となった。2つの解答を求められており、片方のみ正答していて誤答となっている児童が4割程いた。 国語の設問2(4)「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」の問いで、全国の平均正答率が3割程度のものだったが、本校でも4割程と低めの結果となった。正解するためには複数の条件を満たす必要があり、その一部が不足しているための誤答が4割弱見られた。また、設問3三(2)「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」の問いで、無回答率が1割ほど見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	複数の条件を満たさないと正解できない問いに対する誤答率が高かった。算数では、単一の条件（行または列のどちらか片方）のみに目を向け、もう一方の条件との交差部分や重複関係（ベン図的・二次元的な整理）を思考の中で保持しきれなかったことが考えられる。国語では、複数の達成条件を同時に満たして記述する能力に課題が見られる。一部の条件（例えば引用のみ、あるいは意見のみ）はクリアできているものの、それぞれを過不足なく統合して表現する点で取りこぼしが生じていると考えられる。また、文字数が多い場合に問題文が読み取れない児童が一定数いると考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※) B	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。(1)については、オクリンクプラスやCanvaやカスタムGemを使いながら学習を展開している事例もあった。(2)については、校内研修とも関連させて、より充実させていく。
⇓		
学力向上策の見直し	当初の向上策に加え、自分の考えを文章にまとめる機会をより充実させていく。	

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）